

学校関係者評価 平成 28 年度 総評

学校法人小倉学園 専門学校東京自動車大学校 学校関係者評価委員会は、自己評価報告書査読、学校施設見学ならびに学校自己評価委員からの報告を受け、当学校が国土交通省第一種自動車整備士養成施設、ならびに文部科学省職業実践専門課程の要件を満たし、適切に運用されている学校法人であると判断した。
各評価項目ごとの総評は以下の通りである。

§ I 学校の教育目標

学校案内パンフレット、ホームページなどで学校外に向けたメッセージ発信を行うとともに、入学者・在校生に対しても「学生便覧」の理事長の言葉、校長の言葉を通じて周知が図られている。

§ II 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

従来より学生募集活動として、専任担当者によるガイダンス参加・学校訪問を積極的に実施するとともに、継続的な体験入学参加を促すことによる入学希望者の確保を行っている。体験入学の参加を通し、募集活動の重要性が教員へも十分に浸透している。

また教員の資質向上の取組みとして、全教員が国家1級整備士資格取得を目指していることも評価できる。

学生の1級合格率については、合格率向上へ向けた一層強固な取組みが期待される。

§ III 評価項目の達成及び取組状況

1. 教育理念・目標

卒業生の8割がディーラーサービスマンとして就職している現状を踏まえ、学内資格である TAUS 検定制度を設けたり、ソーシャル検定の必須化によるコミュニケーション力強化の取組等は、まさしく職業実践として評価される。

2. 学校運営

自己評価で自ら指摘しているように、学内共用サーバーの設置による情報共有化の取組は評価できるものの、セキュリティポリシーの確立や運用については脆弱性も認められる。

その他の学校組織運営に関して著しい問題はない。

法人本部とは物理的距離は離れているが法人の専任本校担当の定期的訪問などを通じよく連携されている。

3. 教育活動

自己評価で授業評価に対する評価が低いが、研究授業は昨今高等学校や大学で広く行われているところであり、本校においても授業力向上のために何らかの方策をとることが推奨される。

その他、教育活動全般については職業実践専門課程の目的とするところをよく捉え、実戦的・実利的な教育が実施されていると評価できる。

4. 学習成果

就職率については過去から現在に至るまで就職希望者全員が堅実な就職先へ就職しており高く評価できる。

退学率低減についても担任を主体に組織として取り組む姿勢が見られ、26年度から減少を続けている。

資格取得について基本となる整備士資格以外の実戦的な資格についても幅広く、取得を必須としている点も評価できる。

1級後期課程においては28年度は他の自動車整備専門学校を含め合格率が良くなかったとはいえ、過去10年の本校合格率を大きく下回ったことは残念である。

5. 学生支援

今後、家計状況による経済困難な学生への救済手段（奨学金制度の検討）、学生のメンタル面でのケア体制（カウンセラ）や保健室の充実、課外活動など学生の基幹活動に付随する学校生活面へのサポートにも充実が期待される。

6. 教育環境

教育環境について特に問題となる点はない。

HV、軽、ハイソカー、スーパーカーなど実習車の新しさと充実は他校にとの競争優位性においても優れた特徴として位置づけられる。

7. 学生募集

本年度の取組でも既述したように募集活動については適正にして充実した取り組みが行われているが、近年の学齢人口の漸減と自動車整備希望者の減少を鑑み、より本校の魅力を多くの入学対象者に伝え、新入生確保に努められたい。

twitter、Facebook、LINE など新しい SNS メディアの活用も評価される。

8. 財務

財務関係について問題となる点はない。

9. 法令等の遵守

本校教育方針としての姿勢上は、成績開示、就職先開示などは評価できるものの、昨今のプライバシー保護や関係法令の観点から、個人情報の保護については、リスクハッジを構築しておくことが望まれる。

10. 社会貢献・地域貢献

中学校・小学校への上級学校体験やキャリア教育授業の受入、NPO 法人との協働によるキッズスクールの開催など自校の教育資産を活用した貢献活動を行っている。学生懲戒処分による近隣清掃活動も結果として地域貢献に役立っている。

11. 国際交流

留学生の受入以外に、希望者により毎年実施される海外研修制度を通じて、日本人学生にも幅広く国際的見分を広める機会を提供している。海外研修が海外有名メーカー見学や海外レース見学など自動車学校の研修旅行としてのスタンスを保っていることに好感を持てる。